

平成14年10月5日(土)～12月1日(日)

平成14年秋季特別展

王の居館を採る

●開館時間/午前10時～午後5時(入館は4時30分まで)
●休館日/毎週月曜日(ただし10月14日(月)・11月4日(月)は開館、10月15日(火)・11月5日(火)は休館)
●入館料/一般600円(480円) 65歳以上・高大生400円(320円) 小中学生・障害者手帳を持つ方は無料(「」内は団体料金・20名以上)

考古学セミナー

場所：1階ホール

時間：午後2時～4時(受付午後1時～)

第1回/10月13日(日)

宮城学院女子大学教授 大草聡

「(C)の「居館」論―首長館の探掘―」

第2回/10月27日(日)

日田市教育委員会文化課主査 土居和幸

「九州における古墳時代前期の居館」

―小迫江原遺跡を中心として―

第3回/11月3日(日)

徳島文理大学教授 香野市正 上山博物館館長 石野博徳

「女王・卑弥呼の居館を採る」

第4回/11月24日(日)

館長 金岡恕と学芸員

「居館の成立を採る」

※全国参加者には修了証と記念品を贈呈いたします

本館学芸員による展示解説

毎週日曜日と祝休日(午前11時)特別展示室)



- 【交通】
- JR阪和線「橿太山」駅下車 徒歩7分
 - 南海本線「松ノ浜」駅下車 徒歩20分
 - 普通車80台、大型バス7台無料

大阪府立弥生文化博物館
Osaka Prefectural Museum of Yayoi Culture

王の居館を採る



居館—それは王や首長が生活し、政治やまつりを行う支配の拠点です。1981年から始った群馬県三ツ寺I遺跡の調査で、古墳時代中頃の大規模な居館の姿がはじめて明らかになって以来、居館の発見例は確実に増加しています。こうした居館のルーツは、弥生時代の大環濠集落の中に現れた、柵や溝で囲まれている王のための特別な区画だと考えられます。弥生時代から古墳時代へと移りゆく中で、王の権威や権力は次第に強くなり、こうした区画は集落の外に営まれるようになりました。居館の誕生です。居館の成立過程は、日本における階級社会の発達を反映しており、居館の姿は隔絶した王の権威と権力を表したものであると言えるでしょう。今回の特別展では、近年めざましい調査成果が挙げられている近畿地方を中心に、王の居館の成立過程とその具体的な姿を探ってみたいと思います。

居館を描いた鏡(レプリカ)
奈良県佐味田玉塚古墳

1 居館成立への胎動

弥生時代における王の登場と軌を一にして、集落の中に特別な区画や大規模な建物が現れました。こうした王のための空間の誕生こそ、居館成立の第一歩でした。



精巧な建築部材
滋賀県下長遺跡

2 偉容を誇る居館の成立

精巧な建築部材は居館の偉容をほうふつとさせます。各地の土器や金属器・玉生産に関わる遺物からは、流通や手工業生産を掌握する王の姿が浮かび上がります。



屋根飾り
滋賀県下之郷遺跡

3 王の権威とまつり

王の権威を象徴する道具や、彼らが行ったまつりの道具。そこに確立していく王権とまつりの実態を探る手がかりがあります。



王の権威を表す儀杖
滋賀県下長遺跡

水辺のまつりに用いた木製品
滋賀県黒田遺跡



美しい装身具
滋賀県下鈎遺跡

主な展示品

- 王の権威を表す儀杖 [滋賀県下長遺跡]
- 水辺のまつりに使われた道具 [滋賀県黒田遺跡、大茂亥・鴨田遺跡]
- 弥生時代の建物を描いた絵画土器 [奈良県唐古・鍵遺跡]
- 活発な交流を示す各地の土器 [奈良県纏向遺跡・滋賀県下鈎遺跡]
- 居館の姿をほうふつとさせる建築部材 [滋賀県下長遺跡]

<出品総数 約500点>